

<熊本支部例会事前抄録>

日時:2026年5月12日(火)19:30~

— 一般講演抄録 1 —

- 症例発表 -

MIとReinterventionを考慮した コンポジットレジン修復の意思決定と臨床手技

陶山 新吾
陶山歯科医院
〒830-0023 福岡県久留米市中央町11-9

陶山 新吾
陶山歯科医院
〒830-0023 福岡県久留米市中央町11-9

■抄録

MIの概念は、2002年にFDI（国際歯科連盟）により提唱されて以降広く浸透し、歯冠修復治療を行う際には考慮すべき概念となっている。MIの概念の中で最も浸透しているのは、う窩形成病変を最小の侵襲により修復処置を行うことである。接着歯学の進歩もあいまって、可能な限り歯を温存することが推奨されるようになってきた。

歯冠修復治療が必要だと診断された場合、口腔内の様々な診断データから修復範囲や修復材料を計画していくことになる。その際、直接法であるダイレクトボンディングで処置を行うか、間接法により補綴装置を製作するかを選択することになる。私は、MIとReintervention（再介入）の観点から可能な限り直接法であるダイレクトボンディングを選択するようにしている。

今回、臨床症例を提示しダイレクトボンディングを成功させるための詳細な充填レシピと各器具を使用する際の勘所について、マイクロスコープ下で治療を行っている動画を供覧し解説したい。